

平成22年度 尊厳擁護専門委員会 開催報告

【活動実績と今後の課題等について】

1 開催状況

	開催日	内 容
第1回	7 / 15 (木)	・平成21年度における事故、苦情相談、介護サービス相談員派遣事業に関する報告について

2 主な活動実績

(1)平成21年度における介護事故、苦情・相談、介護サービス相談員派遣事業に関する報告について

ア 事故報告件数は、平成20年度に比べ439件(約43%)増加している。

主な理由として介護事故の報告要件が、平成20年度までは「病院受診し治療を要したものである」であったが、平成21年4月から「治療の有無を問わず病院受診した事故全て」に変更したことも増加の原因の一つである。

増加した事故種類としては、誤嚥、誤薬、転倒、転落等となっているが、過去2年に比べ平成21年度では、転倒・転落事故の増加が著しい。

これに対して、委員から、

- ・服用する薬によっては、副作用によるふらつきで転倒事故が起きることもあるので、薬の副作用等について介護スタッフへの十分な情報提供や注意喚起が必要である。との意見があった。

イ 死亡事故については、平成20年度14件から21件に増加している。

このうち、誤嚥によるものが13件、転倒3件、転落1件、入浴中の溺死1件、自殺が3件となっている。

これに対して、委員から、

- ・誤嚥による死亡事故について、キザミ食にすれば誤嚥を防げるというのではなく、一方で物を噛み砕いて飲み込むという嚥下機能を低下させることにもなる。どういう食事、どういう食材が摂れるかをよく見極めて介護を行うことが必要である。食事の問題にどのようにケアマネジャーが関わっているのかが重要であり、ケアマネジャーの能力の向上が必要である。
- ・特定施設における死亡事故件数が多いので、原因等の分析が必要である。
- ・自殺の件数が増加してきているので、精神障害や統合失調症に対するケアを十分にする必要が出てきている。

などの意見があった。

ウ 今回、各事業者への事故防止への取り組みの充実を図るため、事故報告の概要や発生状況等をまとめた事故報告書を作成した。

これに対して、委員から、

- ・事故報告を多面的に分析することにより、事故の発生状況等が様々な面から捉えられ、事故防止の取り組みに活用できるため、事業者への効果的な周知が望まれる。

などの意見があった。

(2)平成21年度苦情相談について

ア 平成21年度の苦情・相談件数は、平成20年度に比べ、苦情件数は1,613件(約30%)減少し約3,800件となっているが、相談件数は6,383件(約13%)増加し、約56,600件となっている。これは、要介護認定方法の見直しに伴う問合わせ件数が増加したことが主な要因となっている。

イ 平成22年度からは、事務負担の軽減及び苦情・相談結果の利活用を図り、事務改善に繋げることを目的に、従来の各区窓口における簡易な苦情・相談を含む件数のみの報告を廃止し、事業者への指導等が必要な案件や解決困難な重要な案件等について、具体的な処理経過の報告を行うよう事務処理方法を見直した。

(3)平成21年度介護サービス相談員派遣事業について

ア 派遣対象施設・事業所数は平成21年度154ヶ所で、平成20年度128ヶ所より26ヶ所増加している。

イ 過去に派遣が満了している事業所等を含め、事業所種別ごとに派遣割合が高いのは、グループホーム66.1%、特別養護老人ホーム61.7%、介護老人保健施設31.4%、となっている。

3 今後の課題・予定

(1)事故再発防止の取り組みの充実について

介護サービス事故報告書を各事業者へ配布し、事故再発防止のための必要な取り組みの充実を図る。